

学位論文審査の要旨

| | | 要 旨 |
|-----------|---|---|
| 学位申請者 | 田中 詩子 【比較社会文化学専攻 平成24年度生】 | <p>本研究では日本で成長した日系ブラジル人青年のエスニックアイデンティティ形成の様相とその影響要因を解明することを目的とした。第1章から第2章では文献研究を通して、日本における日系ブラジル人の子どもの現状についてデータや関連する研究を示し、青年期のアイデンティティ形成の問題の重要性を論じた。また、日系ブラジル人の子どものエスニックアイデンティティ形成には二元的文化化の環境やブラジルへの帰国体験が影響することを示した。第3章から第6章では実証研究を行った。第3章では日本の中学校・高校に在学する日系ブラジル人生徒を対象に質問紙調査を行った結果、「ブラジル人的アイデンティティ」「統合アイデンティティ」「周辺化アイデンティティ」「日本的アイデンティティ」の4因子が得られた。さらに家庭生活環境、帰国体験、属性との関連を検討した。第4章では日本の小・中学校に在学経験のある日系ブラジル人青年を対象に質的調査を行った結果、エスニックアイデンティティの自己認識には、「家庭における体験」「学校における体験」「職場における体験」「帰国体験」の4カテゴリーが抽出された。第5章では事例研究を元に、日系ブラジル人青年が現在のエスニックアイデンティティの自己認識に至る過程を明らかにし、エスニックアイデンティティの形成過程はそれぞれ異なり多様であることが示された。第6章では事例検討からみたエスニックアイデンティティの自己認識形成の影響要因として、親子関係、周囲からのエスニシティに関する認識および帰国経験の有無と帰国年齢、帰国に対する自発性の観点から検討した。第7章ではまとめと総合的考察を行い、上述した結果から日本で成長した日系ブラジル人青年のエスニックアイデンティティは、時期によっても場面によっても変容する可能性がある流動的なものであることを示した。本研究の意義は、多文化化しつつある日本社会の現代的課題である、日本で成長した日系ブラジル人青年のエスニックアイデンティティ形成について、複数の事例を通して当事者の視点から多様かつ流動的なエスニックアイデンティティ形成の様相を示したことだといえる。</p> <p>審査は左記の5名の審査委員により6月から3回行なわれた。審査委員会では、審査員一様に研究課題に即した明晰かつ総合的な分析がなされており、日系ブラジル人青年のエスニックアイデンティティ形成の影響要因について、コミュニティ心理学から検討した獨創性の高い論文であると評された。また、方法的にも量的な調査だけでなく質的なインタビューを用いており事例研究の妥当性が高く評価された。しかし、事例のさらなる詳述など内容面での若干の修正が指摘されたため、これらを踏まえ適切に修正を行い、7月上旬に再提出した。再審査の結果、7月24日に公開発表会と最終試験が行なわれた。公開発表会では、明晰かつわかりやすい発表であり、参加者や審査委員の質問に対しては真摯な態度で的確に回答した。最終試験では、論文内容、語学力および周辺領域の基礎知識について口頭で説明を求めたが、適切な回答を得られたので、審査委員会では、最終試験を合格と判定し、博士（人文科学）(Ph. D. in Intercultural Education) として認定するに値すると、全員一致で学位授与を決定した。</p> |
| 論文題目 | 日本で成長した日系ブラジル人青年のエスニックアイデンティティ形成と影響要因 | |
| 審査委員 | (主査) 教授 加賀美 常美代 | |
| | 教授 浜野 隆 | |
| | 教授 熊谷 圭知 | |
| | 教授 伊藤 美重子 | |
| インターネット公表 | <p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ ⊖)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>⊕. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p> | |
| | | |